



CFTC建玉報告:円/ドル、ユーロ/ドル(9月4日時点)

米商品先物取引委員会(CFTC)が9月7日に発表した建玉報告によると、4日時点のシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)IMM通貨先物円(対ドル)相場の大口投機筋(非商業部門)の売越幅は5万1932枚となり、前週比5891枚拡大。投機筋は買いポジションを減らし、売りポジションを増やした。

期間中の円(対ドル)は軟調。トルコやアルゼンチンなど新興国通貨が不安定なことや、トランプ米政権の保護主義を受けた世界的な貿易摩擦激化への懸念を手掛かりに安全資産とされる円を買ってドルを売る動きが強まる場面もあった。しかし、4日に米供給管理協会(ISM)の8月の製造業景気指数が61.3と、前月の58.1から上昇し、2004年5月以来約14年ぶりの高水準となったことでドル買い円売りが進行した。

期間中のユーロ(対ドル)は下落。大口投機玉のポジションはネットで前週の売り越しから買い越しに転じ、買越幅は7963枚となった。米中貿易摩擦を巡る懸念が強まる中、ユーロ売りドル買いが進行。ただ、トルコ中銀が9月の金融政策決定会合で物価安定を支援するために必要な対応を取る方針を示し、利上げを示唆した。これを受けてトルコリラ急落に一定の歯止めがかかり、トルコ向け融資が懸念される欧州の銀行への悪影響が軽減されるとの見方からユーロが買われた他、サルビーニ副首相が欧州連合(EU)の財政規則など「すべてのルール」を尊重すると述べたこともユーロの下支え材料となり、ネットポジションは買い越しに転じていた。

日付	円/ドル		ユーロ/ドル	
	終値	枚数	終値	枚数
05/08	109.12	-5,462	1.1864	120,505
05/15	110.36	3,680	1.1837	115,114
05/22	110.91	-2,767	1.1777	109,744
05/29	108.75	-8,036	1.1535	93,037
06/05	109.79	-3,437	1.1715	89,236
06/12	110.38	5,052	1.1744	88,225
06/19	110.08	-35,562	1.1588	36,118
06/26	110.07	-34,221	1.1646	33,904
07/03	110.57	-38,730	1.1658	36,747
07/10	111.26	-39,832	1.1747	24,357
07/17	112.85	-58,650	1.1662	21,407
07/24	111.19	-73,769	1.1682	29,640
07/31	111.75	-68,457	1.1696	22,825
08/07	111.37	-62,807	1.1598	10,565
08/14	111.14	-58,368	1.1343	-1,789
08/21	110.22	-47,406	1.1571	-4,841
08/28	111.17	-46,041	1.1694	-7,219
09/04	111.45	-51,932	1.1582	7,963
前週比	0.28	-5,891	-0.0112	+15,182

